

# さば類に関する調査・研究

## 1. 目的

神奈川県で漁獲されるマサバとゴマサバを合わせた「さば類」は、神奈川県の魚種別漁獲量で見るとカツオやまぐろ類に次いで多く漁獲されています(2021年)。2010年代中盤までの漁獲を支えた伊豆諸島海域の「たもすくい網漁」の撤退によって年間漁獲量は減りましたが、定置網や一本釣りなどの「沿岸漁業」の対象として、本県漁業における重要な位置を占める魚種となっています。水産技術センターでは、マサバ、ゴマサバの資源状況や、海況に左右される相模湾や東京湾への来遊に関する情報を漁業者に提供することを目的として、調査・研究を実施しています。

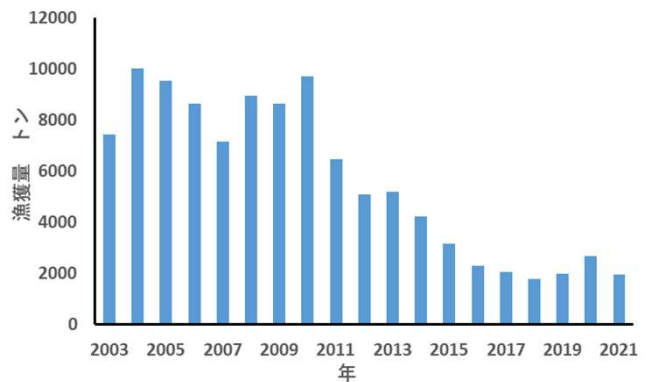
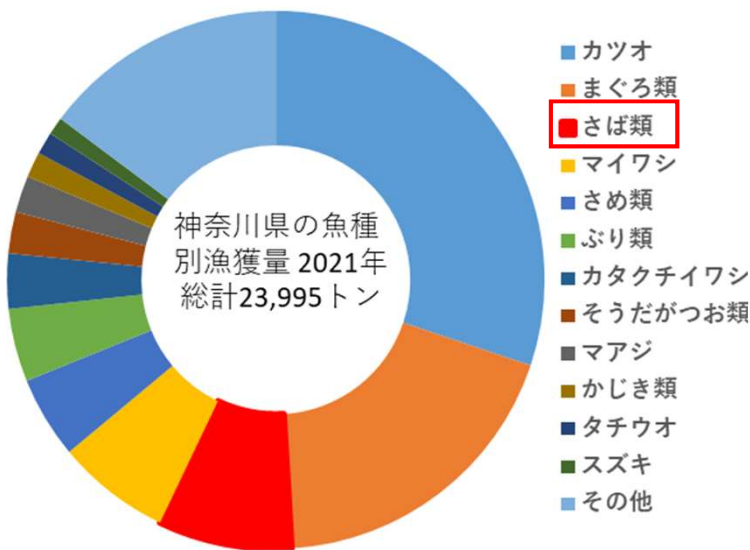


図 神奈川県のさば類漁獲量の年変化

## 2. 内容と得られる成果

マサバは主産卵場となっている伊豆諸島海域に毎年1~6月に南下・集群し、黒潮系暖水の強い波及を合図に北上することが知られています。「松輪さば」と呼ばれるブランド魚も、量的に多くのマサバを漁獲する相模湾内の定置網に入るものも、この北上群の一部であると考えられています。

同じく伊豆諸島海域から沿岸へ来遊すると考えられているゴマサバを含むさば類の状態を調査船調査を通じて知ること、さば類の北上期の黒潮流路の状況を一都五県が共同運用する高精度海況図、「関東・東海海況速報」で把握することなどにより、どんなサイズの魚が、量的にどの程度沿岸に来遊してくるのかを予測することに役立っています。

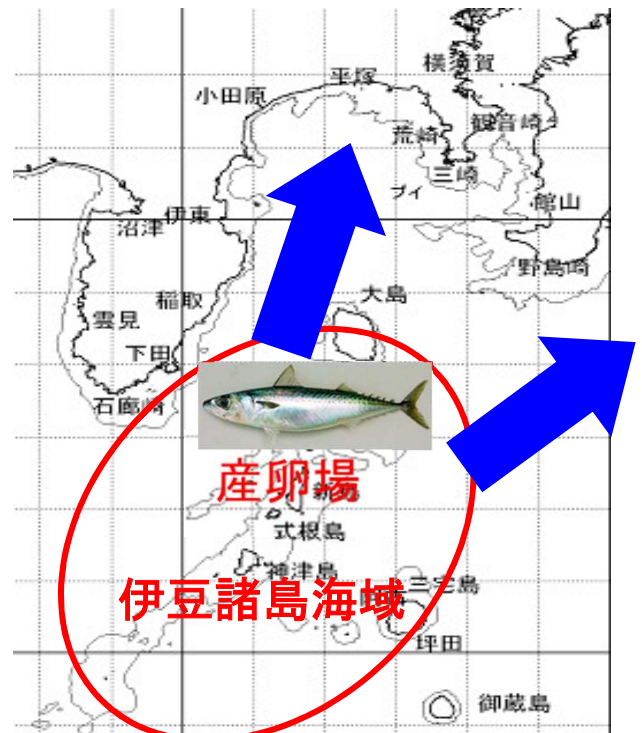


図 伊豆諸島海域からのマサバの北上